

令和元年度 学校関係者評価委員会の報告

学校関係者評価委員会 委員長 黒木 美枝

令和元年度の学校関係者評価の結果、以下のとおり報告いたします。

I 重点目標について

富士中では、重点目標として『時代の要請に応じた学力向上に取り組み、学びの充実を図る』『自らを律し、他者に貢献する行動力を高める』『心身の健康に努め、満足感の得られる学校生活を実現する』の3点を挙げ、それぞれに数値目標を設定しています。

『時代の要請に応じた学力向上に取り組み、学びの充実を図る』では学校関係者評価アンケート生徒独自項目『わたしは、意欲的に学習に取り組み、よく考えようとしている』の肯定的評価75%以上、教員自己評価『授業をとおして、子どもたちに考えさせる工夫をしている。』の「とても思う」の回答50%以上を目標に設定しています。昨年度わずかにとどかなかった生徒の肯定的評価は78%になり目標を上回りました。「思わない」「わからない」だった回答が減少しプラスに転じました。教員自己評価では「とても思う」の回答は17%で、「思う」を含めた肯定的評価は100%でした。また、生徒の『授業の内容はよくわかる』の肯定的評価は80%以上の数値になっています。引き続き生徒自ら考え、課題解決を図ろうとする授業創りをお願いします。

『自らを律し、他者に貢献する行動力を高める』ではアンケートの生徒独自項目『わたしは、学校のきまりを守って行動している。』『わたしは、ノーチャイム制によって時間を意識している』の肯定的評価95%以上を目指しています。『わたしは学校のきまりを守って行動している』の生徒の肯定的評価は93%でわずかに届きませんでした。『わたしはノーチャイム制によって時間を意識している』では86%でした。目標値が高いこともクリアできていませんが、あと一歩のところまでできています。「自律」と「貢献」を意識した富士中プライドの醸成に期待します。今後も地域と連携したボランティア活動や体験活動への啓発を進めて下さい。

『心身の健康に努め、満足感の得られる学校生活を実現する』では、Q-U調査における学級生活不満足群に属する生徒の割合を10%以内にするという目標の結果は3年生が14%で、学年が下がるごとに割合が増えています。とくに1年生の入学時前後の円滑な小中学校移行や教育相談、学習カウンセリングなど、更に手厚い対応が必要と思われます。学校関係者評価アンケートの『毎日の学校生活が楽しい』の項目でも保護者・生徒の肯定的評価は7割以上あるものの、昨年度に比べ否定的な生徒の数値がわずかに増えました。約2割の生徒は「思わない」と評価しています。意欲的に学校生活が送れるための、一層の配慮が望されます。

II 地域との連携・協働による教育について

地域運営学校に指定されて11年目になりました。クリーン作戦、避難所運営訓練、古着回収、挨拶運動や代沢地区文化スポーツ交流会等の地域活動・ボランティア活動をとおして、地域との交流を図っています。今年度からは地域貢献活動の場所を、学び舎内の小学校と幼稚園、地域内の児童館に広げ、自己の判断で参加しやすくし、「in（地域の中で）with（仲間と一緒に）for（地域のために）」の取り組みも行われています。こうした取り組みが功を奏して、アンケート生徒独自項目の『わたしは、自分を支えてくれる人々に感謝し、地域に貢献していこうという気持ちが強まつた』は、昨年度を大きく上回り8割近い肯定率になりました。富士中プライドの醸成の効果が数値となって表れています。更なる活動の促進を望みます。

III 「世田谷9年教育」で実現する質の高い教育活動の推進

富士中は学習の「質と量」を常に大切にしています。質としては、数学・英語における「少人数習熟度別授業」の実施、教員による授業研究・授業観察を実施し、指導方法の工夫に取り組んでいます。併せて各教科において「ICT活用授業」の推進を図っています。アンケートの生徒独自項目『習熟度別少人数授業（数学、英語）は、学習内容がわかるのに役立つ』では生徒の数値は8割近い肯定率となっており、保護者の数値も同様の肯定率でした。量としては、授業時数の確保に努めています。さらに、放課後学習・夏季補習教室や富士サタスタ、区土曜講習会・朝学習（2・3年生）等も定着しています。世田谷9年教育にのっとり小学校3校と富士中とで計画的に小中連携が行われており、活動は継続され、安定しています。

昨年度「思わない」「わからない」の回答が目立った『学校協議会や合同学校協議会・学校運営委員会・学び舎の十分な情報が提供されている』の保護者・地域に関してもプラスの数値に転じています。「富士中だより」～学び舎通信～より、情報提供がスムースになったと思われます。また学校運営委員会、学校関係者評価委員会の紹介も記載されました。広報活動・情報提供については全体的に肯定的な数値が伸びています。引き続きわかりやすい情報提供をお願いします。

生徒の『学び舎の区立小学校との交流が活発である』についての数値はわずかに下がりましたが、10月には学び舎3校との新入生児童・保護者入学説明会も行われ、学び舎3校以外の児童や保護者の方々の参加もあります。そして、生徒だけではなく先生方の交流の機会も増えています。様々な学び舎の取り組みと情報発信の継続を今後もお願いします。

また、職場体験学習は2年生を対象に36の事業所のご協力を得て9月に実施されました。地域社会の実践の場に立つことは「職業を学ぶことの意義について気づく」、「働くことの意義を理解する」、「自己の適性」、「社会のかかわりについて考える」、「働く」ということを理解し、将来の進路の選択に役立てることや、挨拶・時間を守ることの大切さを学べる重要な場となっています。重点目標である『時代の要請に応じた学力向上に取り組み、学びの充実を図る』ことや『自らを律し、他者に貢献する行動力を高める』こと、これら「質と量」を大切にする取り組みは、今後も維持に努めてください。

さらに、ゲストティーチャーの講義は毎年工夫されており、進路指導（キャリア教育）に活かされています。また、『入りたい部活動がある』は生徒76%、保護者50%の肯定率でした。今年度は部活動にバトミントン部、柔道部が新たに開設されましたが、保護者の部活に対する評価は低い状況です。引き続き保護者に対して現状説明が必要と思われます。

IV 信頼と誇りのもてる学校づくりについて

学校運営についての各設問に対してのアンケートでは保護者は7割以上の肯定率で、地域に関しては9割以上でした。『校長をはじめ教職員は、協力して教育活動に取り組んでいる』の保護者の数値はほぼ8割近くが肯定的な回答でした。教職員の連携がとれている事がうかがえます。『教職員について』は生徒・保護者共に7割以上の肯定率です。『先生は、いつも熱心に指導している。』は、生徒については昨年度よりわずかに低い数値でしたが、78%という8割近い肯定率でした。引き続き確認、連携の向上を目指す取り組みをお願いします。

安全管理については、7月に震度5弱以上の地震が発生した場合の引き取り訓練も行われ、プリント配布やホームページ掲載等が行なわれました。更なる安全確保の向上に向け地域・保護者・学校の共通の認識を深めるための工夫・改善の継続を図ってください。

ホームページに関しては保護者・地域ともに昨年度よりプラスになり、評価は大幅に改善されています。広報活動や情報発信に引き続き努力をお願いします。

昨年4月より図書館に専任の図書館司書が着任され、学校図書館を読書センターと学習センターの両面で機能させていく取り組みが進んでいます。パソコンも設置されe-ラーニングもでき、図書館利用の生徒が増えています。学校運営の今後の取り組みに期待します。また、道徳地区公開講座などの土曜授業日への保護者・地域の参加促進を図る「知らせる取り組み」は今後も継続をお願いします。保護者・地域の皆様が学校に足を運ぶ事はとても重要だと思います。

V 安心安全と学びを充実する教育環境の整備

まず、富士アシストの皆様に特別教室へのテレビセットの寄贈に関して感謝いたします。子どもたちに必要な教育環境の整備に学校・保護者・地域の連携が必要不可欠です。今後ともよろしくお願ひいたします。世田谷区の耐震診断調査の結果は「校舎棟および体育館棟とも引き続き通常の使用が可能である」でした。今年は2月に体育館の空調取り付け工事が行われ、10月には体育館の補強工事も予定されています。定期的に行われている安全指導や避難訓練、地域との連携による避難所運営訓練、災害時対応などの保護者への情報提供、校内現況や衛生面など、『学校の安全性について』の保護者の肯定率は8割以上あり、とくに情報提供については昨年の76%から85%に肯定率が上昇しました。保護者・地域の方々とともに、安心・安全な学校づくりへ更なる努力と、密な連携をお願いします。

VI 学校生活全般について

スクールカウンセラーによる相談活動の充実を図る取り組みの認知度は昨年とほぼ同様で、個に応じた対応ができます。「富士中だより」に毎回載っている情報は具体的で大人にも役立ちます。カウンセラーへの相談は生徒だけではなく、保護者もできます。

学校全般についての質問項目『本校の子どもたちは学校生活が楽しいと感じている』は、保護者の肯定的回答が昨年同様約8割でした。しかし、生徒の『毎日の学校生活が楽しい』の肯定率が74%、『自分の通学している中学校が好きである』の肯定率が68%と、昨年度よりわずかに減少しました。

学校行事についての『楽しみにしている学校行事がある』では、生徒は7割以上で保護者は8割以上の評価でした。学校・保護者・地域に見守られ成長していく子どもたちの様子が見て取れます。「学校が好きで、友達と一緒に学べるのが楽しい」と思える環境作りや丁寧な個々への対応になお一層の尽力をお願いします。

VII 学校評価委員会の総合所見

評価委員会としては、まず先生方の日常の努力に感謝いたします。

- 1 教職員による自己評価アンケートの内容はかなり具体的で、改善策が打ち出しやすい形式になっています。また、『豊かな人間性と教育への情熱をもつ教職員』『協力し、助けあえる教職員』『自己を高める意欲の旺盛な教職員』『生徒のモデルとなる教職員』という「めざす教職員像」を打ち出し、地域の学校として意欲的に取り組んでいることがわかります。

- 2 ほとんどの生徒たちは富士中が好きで、楽しく学校生活を送っていることがわかります。しかし約2割の生徒に対して丁寧な対応が必要です。『部活動について』『進路に関する情報が十分提供されている』『先生は、誰に対しても公平である』については、今後の工夫と改善の努力を望みます。生徒たちにとって最大の教育環境は教師自身の姿そのものであり、人間としての豊かさや広い分野での教養を求められると思います。学習面でも「質と量の確保」をこれからも続けていただくとともに、生徒たちと向き合う時間の確保にも尽力をお願いしたいと思います。また、各御家庭・地域の皆様におかれましても、手本となる良き家庭環境・地域環境として温かく子どもたちを見守っていただきたいと思います。
- 3 今年度5月から「富士中だより」に「先輩通信」が掲載されています。卒業生の体験談は進路に役立つ貴重な情報です。在校生へエールを贈るこの取り組みの継続をぜひお願いします。
- 4 保護者による「さよなら、声かけ当番」は、今年で21年目になりました。わが子だけではなく、地域の子どもたちの様子を知る良い機会となっています。皆さまのご協力が、子どもたちの安全と安心の一助となっています。「子どもたちを見守る」この素晴らしい取り組みを、このまま継続していただきたいと思います。
- 5 学校を取り巻くいろいろな環境が、年々、整備かつ改善されていることを評価いたします。なお、継続する課題につきましては、引き続き検討をお願いします。

学校関係者評価委員会	委員長	黒木	美枝
	委 員	横光	香里
	委 員	中村	説子
	委 員	森	奈弓
	委 員	三島	祥子
	委 員	三橋	由季
	委 員	酒井	幹郎
	委 員	中村	みどり